



児童奉納踊り
左上：前田利長公墓所前
中央：緑地公園石碑前
下：有磯正八幡宮

主催：御印祭実行委員会 金屋町自治会
共催：北日本新聞社 弥栄節保存会
後援：弥栄節後援会
高岡市 高岡市観光協会
高岡市教育委員会
協賛：西条地区連合自治会
横田地区連合自治会
川原校下連合自治会
三協立山株式会社 山岡石材工業株式会社



加賀藩主前田利長公のご恩に報い
鑄物師の息遣いを唄と踊りに想いを込めて



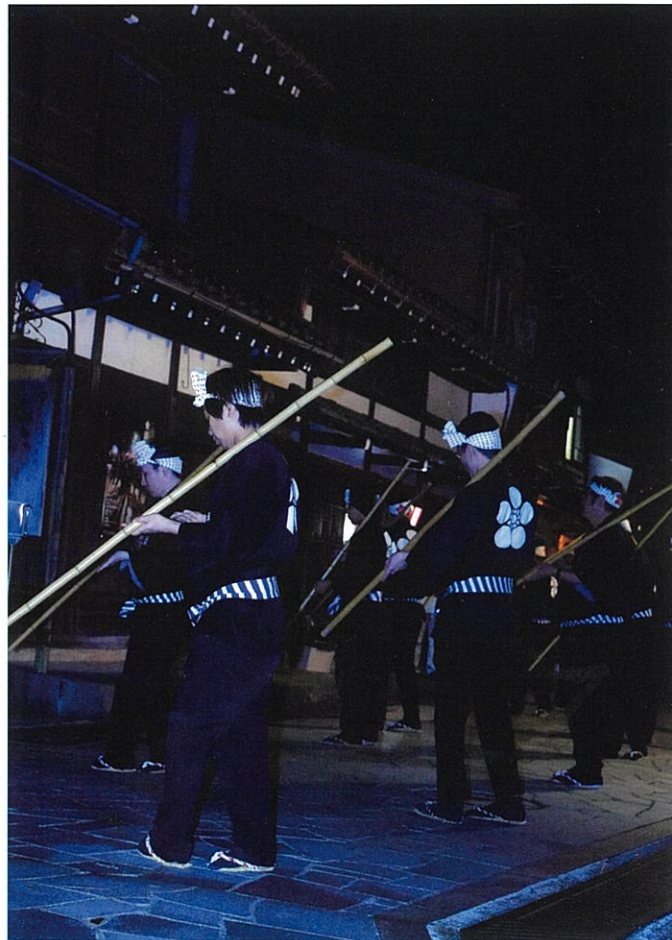
ご いん さい
御印祭

2024年 6月19日(水)
20日(木)



6月19日(水)
 19:00~ オープニングセレモニー
 前夜祭弥栄節町流し

6月20日(木)
 17:30~ 奉納踊り 金屋緑地公園石碑前
 17:30~ 児童町流し 金屋町各町内
 19:00~ 祭典 有磯正八幡宮
 神興巡行



約400年前、慶長14年(1609)加賀藩2代藩主前田利長公が庄川下流の関野ヶ原に城を築き高岡と改名し、城下の繁栄策として慶長16年(1611)砺波郡西部金屋村より鋳物師7人衆を招き、千保川左岸の土地(幅50間長さ100間約5千坪)を与え 諸役(税)を免除等の保護のもと鋳物業を営ませた。利長公より拝領の土地を御印地と称し現在に至るここ金屋町に高岡産業の起源があります。

御印祭(ごいんさい)は、藩主利長公より拝領した宅地を始め、多くの手厚い保護に対して報恩感謝の誠を捧げ、藩主のご命日に遺徳を偲ぶためのものです。慶長19年5月20日がご命日ですが、明治6年に、旧暦の5月20日が、新暦では6月20日になったのです。

弥栄節/やがえぶし

一、河内丹南鋳物の起こり(ヤガエー)
 今じゃ高岡金屋町エー(エンヤシャ ヤッシャイ)

今じゃ高岡金屋町エー(エンヤシャ ヤッシャイ)

二、火の粉吹き出すあの火の下に
 いとし主さんタタラ踏むエー
 いとし主さんタタラ踏むエー

三、タタラ踏み踏みやがえぶ唄うや
 鉄も湯となる釜となるエー
 鉄も湯となる釜となるエー

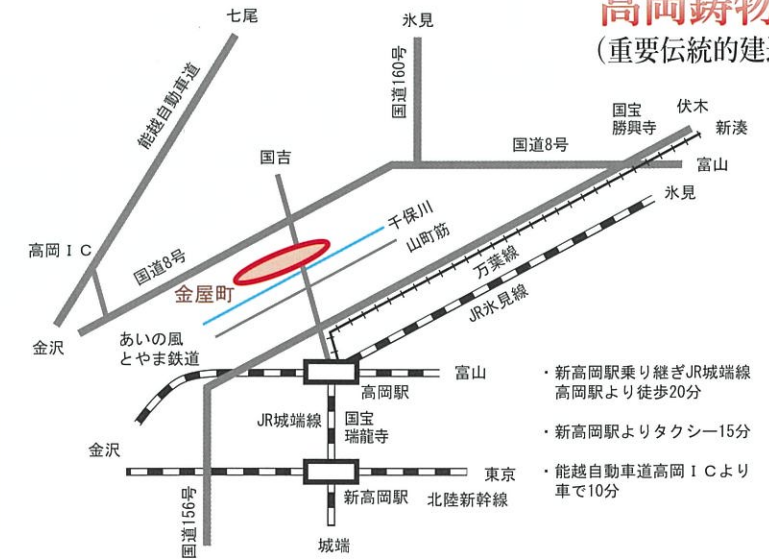
四、めでためだの鍋宮様よ
 鋳物栄えて世も映えるエー
 鋳物栄えて世も映えるエー



弥栄節の由来

高岡鋳物作りの作業歌として金屋町で生まれ、歌い継がれてきました。当時鋳物師は地金を溶かす時「たたら」と言われる足で踏む大きな「ふいご」を用い、炉の中へ強い風を送りました。「たたら踏み」は単調な作業ですが、重労働で体力の消耗も激しく、睡魔とのたたかいでもありました。板人(いたど)と呼ばれる職人達が12人1組で二手に分かれ、夜通し作業を続けます。この時、板人頭の青竹をたたく調子に合わせ、自然に歌われだしたのが「やがえぶ」です。やがえぶを口ずさみ、疲れる身体を元気づけ、足踏みをそらえたのです。昭和初期にその作業歌に囃子と踊りを付けて民謡(弥栄節/やがえぶし)が生まれ、今日に伝承しています。

高岡鋳物発祥の地 (重要伝統的建造物群保存地区) 金屋町



- ・新高岡駅乗り継ぎJR城端線 高岡駅より徒歩20分
- ・新高岡駅よりタクシー15分
- ・能越自動車道高岡ICより車で10分



*御印祭会場周辺は見物客用の駐車場がないため、公共交通機関等をご利用ください。

◆踊り団体

金屋町児童クラブ(幼児含む)、西部保育園、川原保育園、高岡西部小学校、高岡西部中学校、富山大学芸術文化学部、華の会、うしお新舞踊研究会、立正佼成会高岡教会、金屋町婦人会、高岡伝統産業青年部、金屋町青年会

踊り&囃子: 弥栄節保存会ヤッホー会



歌と踊りを動画で伝授いたします。

弥栄節保存会ホームページ <https://yagaefu.kanaya-machi.com/>